

V

嶺南地域の公共交通の現状と課題

1. 嶺南地域の公共交通を取り巻く現状

地域、公共交通の状況、および各種調査結果を集約すると、嶺南地域の公共交通を取り巻く現状・問題等として、以下の事項が挙げられます。

地域における公共交通の状況

●高齢化が進展、外出支援はますます重要

いずれの市町も少子高齢化が進展。今後、運転免許を返納する高齢者も増えることから、高齢者等への外出支援は、ますます重要になる。

●日常生活に必要な施設は概ね各市町に立地、大きな病院・店舗等は敦賀・小浜に立地

日常生活に必要な店舗や公共施設等は、概ね各市町に立地。ただし、大きな病院・店舗等は、敦賀市、小浜市に立地。舞鶴市や関西方面等へ出向く人もいる。

●小浜線の利用者の固定化

小浜線の現在の主な利用者は通学・通勤目的であり、他の住民も含め、ほぼ決まった区間しか利用していない。また、駅から徒歩圏に行く際の利用が大部分である。

●小浜線の利便性向上への要望が多い

特定箇所の大雨や暴風の際に全線が運休する場合があることや、日中、運行間隔が2時間以上空く時間帯があるなど、ダイヤや運行方法の改善への要望が多い。

●小浜線と主要駅に発着する路線バス、市町内のコミバス等によるネットワークはあるが、市町間の移動には利用されていない

小浜線が東西方向の基軸であり、路線バスやコミバス等が主要駅に発着しているが、概ね市町内のみで運行されている。現状では駅でのコミバス等の利用者が多いわけではない（市町内での外出に利用されている）。

●市町内の外出でコミバス等の充実への要望、市町内に不便地区が点在

高齢者や公共交通利用者から、コミバス等の充実への要望がある。また、各市町内に公共交通不便地区が点在している。

●小浜線とバス等との接続がよくない

小浜線利用前後の交通手段は徒歩や自転車が大半を占めており、家族の送迎も多く、バス等へ乗り継ぐ人はほとんどいない。公共交通への改善希望として、電車とバスの乗り継ぎに関することが多い。

地域における公共交通の状況

●公共交通はいずれも利用者が少なく、運営面で厳しい状況

小浜線、路線バス、各市町のコミバス等とも、利用者が減少しており、厳しい運営状況にある。

また、特にバス等については、運転手の確保が困難になっている。

●高校生の大半が小浜線・自転車等で通学、クルマでの送迎も多い

大半の高校生が小浜線、自転車等で通学する一方、ダイヤがあわず片道を家族等のクルマで送迎してもらう生徒も多い。送迎が家族等の負担になっていると認識している生徒も多い。

観光周遊における公共交通の状況

●観光地が駅から離れて立地、各市町にとって観光振興は大きなテーマ

嶺南地域では特色ある観光スポットが各市町にあるが、観光地が駅から離れて立地しており、大半が駅から徒歩ではアクセスできない位置にある。観光客入込数は海水浴シーズンが多い。いずれの市町でも、観光は大きなテーマになっている。

●観光客が嶺南地域を回る移動手段として公共交通が選ばれていない

敦賀駅までは鉄道利用者が大半だが、周遊する際に小浜線やバス等を利用する観光客は少ない。「行きたいところを回るのに便利」、「ほかの手段が思いつかない」との理由からクルマを選んでおり、鉄道やバス等を使い継いで嶺南地域を周遊する観光客はほとんど見られない。

●嶺南地域を周遊するスタイルの観光客は少数派、小浜線利用客は、駅徒歩圏等で観光

概ね単一の市町を訪れて帰る観光客が大半で、地域内を周遊するような観光客は少数派。観光での小浜線利用客で、バス等に乗り継ぐ人はわずかで、ほぼ駅から徒歩圏にしか訪れておらず、周遊できていない。

●公共交通による観光地へのアクセスが観光客にとって分かりにくく、公共交通で周遊する観光イメージがない

嶺南地域全体の観光スポットと駅との位置関係や、徒歩、小浜線、バス、タクシー等で行けるかどうかを知らない、分かりにくい等の声が多数。観光客には、公共交通で周遊するイメージがない。

●北陸新幹線の敦賀開業で観光客の増加が期待されるが、現状のままでは、嶺南地域全体には波及できないおそれ

北陸新幹線の敦賀開業によって、関東・信州方面から嶺南地域への観光客の増加が期待される。敦賀駅から遠くないエリアの周遊観光にとどまってしまうよう、北近畿地域などとの連携が必要である。

住民の暮らしにおける公共交通の状況

●自動車保有台数が多く、運転免許保有率が高い

住民の自動車保有台数は増加し続け、近年においても微増しており、運転免許保有率も極めて高い。

●居住者のクルマ志向が強く、クルマ中心のライフスタイル

いずれの市町の居住者も、クルマ（運転、送迎・同乗）中心のライフスタイルとなっている。クルマ志向が強く、公共交通が移動手段の選択肢にない。

●嶺南地域の公共交通が住民に認知・理解されていない

住民にとって、小浜線、バス等の魅力は親しみや安心感があること。ただし、決まった区間しか利用されず、乗り継ぎ利用は敬遠されている。多くの住民が、小浜線やバス等を使って、どこに行けるか認知・理解していない。よく知らないため、公共交通を利用するのに抵抗感がある。

●将来の交通手段に対する不安や、公共交通と人が中心のにぎやかなまちへの意向

現在は、クルマ志向・クルマ中心の考え方だが、将来、車の運転ができなくなることや公共交通機関がなくなることによって不安を感じる人が多い。また、将来については公共交通と人が中心のにぎやかなまちを望む人が多い。

2. 嶺南地域の公共交通の施策の方向性

公共交通の現状と、嶺南地域全体のまちづくりの方向性を照らし合わせ、今後、下記のような視点で、公共交通を考えていくことが重要となります。

地域における公共交通の状況

- 高齢化が進展、外出支援はますます重要
- 日常生活に必要な施設は概ね各市町に立地、大きな病院・店舗等は敦賀・小浜に立地
- 小浜線の利用者の固定化
- 小浜線の利便性向上への要望が多い
- 小浜線と主要駅に発着する路線バス、市町内のコミバス等によるネットワークはあるが、市町間の移動には利用されていない
- 市町内の外出でコミバス等の充実への要望、市町内に不便地区が点在
- 小浜線とバス等との接続がよくない
- 公共交通はいずれも利用者が少なく、運営面で厳しい状況
- 高校生の大半が小浜線、自転車で通学、クルマでの送迎も多い

観光周遊における公共交通の状況

- 観光地が駅から離れて立地、各市町にとって観光振興は大きなテーマ
- 観光客が嶺南地域を回る移動手段として公共交通が選ばれていない
- 嶺南地域を周遊するスタイルの観光客は少数派、小浜線利用客は、駅徒歩圏等で観光
- 公共交通による観光地へのアクセスが観光客にとって分かりにくく、公共交通で周遊する観光イメージがない
- 北陸新幹線の敦賀開業で観光客の増加が期待されるが、現状のままでは、嶺南地域全体には波及できないおそれ

住民の暮らしにおける公共交通の状況

- 自動車保有台数が多く、運転免許保有率が高い
- 居住者のクルマ志向が強く、クルマ中心のライフスタイル
- 嶺南地域の公共交通が、居住者にも認知・理解されていない
- 将来の交通手段に対する不安や、公共交通と人が中心のにぎやかなまちへの意向

嶺南地域の公共交通の施策の方向性

日常の移動手段としての公共交通の利便性向上

- ・小浜線を東西の基軸とし、通学や買い物、通院など、日常の市町間での移動、各市町内での移動等に、より便利となる公共交通の運行方法等について、検討していく必要があります。
- ・今後高齢化が進んだ状況においても、活発な外出を支援するため、公共交通を充実させる必要があります。
- ・高齢者、高校生等にとって、公共交通は不可欠ですが、利用客が少なく、また運転手の確保も厳しい現状にあるため、より多くの人に利用され、将来まで持続する公共交通を目指す必要があります。

観光周遊に利用できる公共交通の確保

- ・北陸新幹線の敦賀開業に向け、より多くの集客を促すとともに、嶺南地域全体への拡がりを図れるよう、観光周遊手段を提供する必要があります。
- ・特に、現状では、公共交通による観光地へのアクセスが分かりにくく、クルマでの来訪客が大半です。また、周遊するには公共交通が不便な面があり、嶺南地域を周遊するような観光客は少数派です。移動手段の面から、この状況を改善する必要があります。

公共交通を中心としたまちづくりやライフスタイルの定着

- ・嶺南地域の住民は、現状では、クルマ志向が高いため、仮に公共交通が充実したとしても、利用されずクルマが選択されるおそれがあります。
- ・地域住民には小浜線やバスのダイヤやルートが知られておらず、利用するのに抵抗感があります。
- ・これらの現状を改善するため、移動手段選択の考え方・ライフスタイル等を変えるとともに、公共交通の利用に対する抵抗感を軽減する必要があります。